

## B—6 Soft 型洗剤と Hard 型洗剤の比較

金城学院大短大 ○山田 寿子  
田尻 笠子

1. 洗剤の Soft 化が問題になっている折柄, その洗淨力について比較する。今回は洗淨後の残留油脂を検討してみた。

2. 木綿の標準汚染布を, 日本油化学協会洗淨力試験委員会法により洗淨。洗剤は A.B.S. の Soft 型と Hard 型を用い, それぞれにトリポリリン酸ソーダと芒硝を添加した。濃度は 0.005%, 0.01%, 0.025%, 0.05%, 0.1%, 0.2%, 0.3%, とし, 40°C, 30 分洗淨。洗淨効率を求めた後, 布 2 枚宛をマイクロソクスレーで四塩化炭素を用い浸出。念のため残留油脂を秤量した。赤外分光光度計にかけて, 炭化水素と脂肪酸の比吸光度から残留油脂を測

定した。

3. 洗淨結果は反射率からの洗淨効率においても、残留油脂量においても、Soft型とHard型の間に差異は認められない。

洗淨効率がよくなると、残留油脂量が少なくなる。

洗剤濃度の高い方が油脂をよく落とす。

硬化牛脂に比べて流動パラフィンは除き難い。